

# Frente



2023.12  
vol.95

## 特集

- 不定期連載  
フレンティが聞く!みえのひとびと  
本沢 結香さん  
(トンガ坂文庫 店長)
- エッセイ  
山崎ナオコーラさん(作家・エッセイスト)  
「わからないままでページをめくる」  
第3回 わからなくても差別しない

## 事業案内

- 男女共同参画フォーラム <sup>ひと</sup>みえの男女2024
- 走ろう。自分のために。誰かのために。  
ホワイトリボンラン2024
- みんなでつくるフレンテ交流会  
フレレク!

## 事業報告

- いまの自分を見つける  
「自分をほめることが苦手なあなたへ」
- いまの自分を見つける  
「人とつながることが苦手なあなたへ」
- フォーカスみえ  
「女子マンガから学ぶ  
セルフラブ(ご自愛)のススメ」

いのちを育み未来へつなぐ

特集!

子どもたちを守るために 今必要なこと

生命(いのち)の安全教育とは



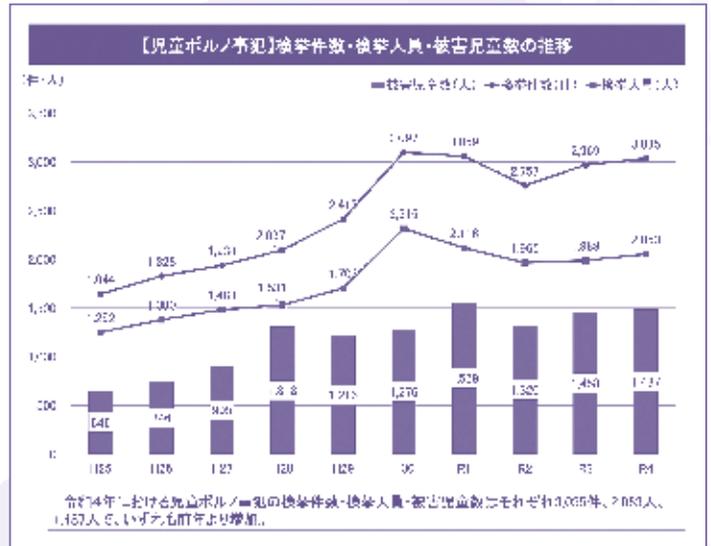
# 子どもたちを守るために、今必要なこと ～ 生命の安全教育

## 子どもたちをめぐる現状

まだまだ多くの人にとっては語るのに勇気がいる性のこと。しかし近年少しずつではありますが、ようやくメディアや教育現場などで性に関することを扱う機会が増え、その風潮も変化しつつあります。では、なぜ今「性」について考える必要があるのでしょうか。

皆さんは今、子どもたちの性被害が増加傾向にあることをご存知ですか？警察庁が公開している資料によると、令和4年度の児童ポルノ被害児童数は10年前の2倍以上です。警察に被害を届け出していないケースもあることを踏まえて考えると、まだまだ多くの被害者がいると考えられます。

そして被害者は女性が多いという現実があります。これは加害者の男性が女性を対等な存在と見ていない、女性は男性に従うものなどといった社会に根強く残る性差別の影響によるものです。



(令和4年児童ポルノ被害児童数の推移 (警察庁「なくそう子供の性被害」より))

## 浮かびあがってきた男性の性被害

最近ではメディアなどでも男性の性被害について語られることも増えてきました。被害を受けるのは女性に限った話ではなく、男性にも起こり得ます。しかし、「男なのに性被害を受けた」という恥の意識から誰にも相談できない人も多くいます。たとえ被害を受けたことを誰かに相談しても「男のくせにそんなこと気にするな」「ほんとに嫌だったら、抵抗できたでしょ？」などと言われてまともに取り合ってもらえず、より相談できなくなってしまうということも起こっています。自身の性被害を相談するのはとても勇気がいることです。被害を訴える人たちにどのように関わるか、今から考えておくことが大切です。

## 生命(いのち)の安全教育が始まっています

こんな現状を変えるために文部科学省が打ち出しているのが「生命(いのち)の安全教育」です。「生命の安全教育」では、子どもたちを性暴力の被害者にも加害者にもさせないようにするという目的のもと、令和3年4月より、教材・手引きが発表され、令和5年からは本格的に取り組みが始まりました。子どもたちの発達段階に応じたねらいをもとに教材が作成されていて、各地域の状況に応じて修正をしながら活用できるようになっています。

### 生命(いのち)の安全教育とは？

生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることを目指すものです。

—文部科学省「生命の安全教育」より—

# とは～



## 「各発達段階におけるねらい」

発達段階	ねらい
幼児期	幼児の発達段階に応じて自分と相手の体を大切にできるようになっていく。
小学校	低・中学年 自分と相手の体を大切にすることを身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
	高学年 自分と相手の心と体を大切にすることを理解し、よりよい人間関係を構築する態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
中学校	性暴力に関する正しい知識を持ち、性暴力が起きないようにするための考え方・態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力が起きたとき等に適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
高校	性暴力に関する現状を理解し、正しい知識を持つことができるようにする。また、性暴力が起きないようにするために自ら考え行動しようとする態度や、性暴力が起きたとき等に適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
特別支援学校	障害の状態や特性及び発達の状態等に応じて、個別指導を受けた被害・加害児童生徒等が、性暴力について正しく理解し、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

活用できる教材は授業展開案とともに発達段階別に文部科学省のHPで公開されていますので、みなさんもぜひ一度ご覧ください。

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/danjo/anzen/index2.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html))  
文部科学省 生命(いのち)の安全教育 HP



これから多くの学校でこの「生命(いのち)の安全教育」が取り入れられ、多くの子どもたちが自分や相手の身体を大切にすることや相手を尊重したコミュニケーションの大切さなどを学びます。しかし、それは子どもたちだけでなく、周りの大人たちも同じように知らなくてはならないものです。「学校のなかのこと」と他人事にせず、一緒に学んでいきましょう。

## 「性被害を受けたかも」と思うことがあれば、いつでも相談を

あなたの身体はあなただけのものです。「こんなことを性被害なんて言っていないのだろうか」「自分にも悪いところはあったし・・・」などと思うこともあるかもしれませんが、それはあなたにとって大切なサインかもしれません。信頼できる人や開設されている窓口にてぜひ相談してください。また、皆さんの周りに悩んでいる人がいたら相談先の情報をお伝えいただくのも良いかもしれません。

フレンテみえでは女性のための相談、男性のための相談、性の多様性に関する相談を開設しています。何か話したいことがあったら、ぜひご利用ください。

フレンテみえ相談室 (<https://www.center-mie.or.jp/frente/consult>)



開催日

8月20日

日

いまの自分をみつめる

## 「自分をほめることが苦手なあなたへ」

臨床心理士、公認心理師でもあるフェミニストカウンセラーの福田さんにお越しいただき、自分をほめることが苦手と感じる女性を対象に講座を開催しました。

なぜ女性は自分をほめることが苦手なのかについて、ジェンダーの視点からご説明いただきました。そして、自分の長所短所をみつめるワークや、自分に向けた弔辞を書くというワークを行いました。講座の終盤では涙を流す方も。参加者の方にとって、自分自身をみつめて、少しずつ認めることができるような時間となったのではないのでしょうか。

参加者からは、「ほめられるようになる下ごしらえのような助走期間のようなことを学べて本当に良かった」「同じ悩みを共有できて良かった」「ジェンダーと関わりがあることを初めて知った」などの感想をいただきました。



開催日

10月1日

日

いまの自分をみつめる

## 「人とつながることが苦手なあなたへ」

名古屋YMCAの増井さとみさんをお招きして、タイトルのとおり、「人とつながることが苦手」と感じる女性の皆さんとともに、今の自分をみつめる講座を開催しました。

まずは、「私ってどんな人？」と、自分の良いところとイヤなところを書き出し、自分を多様な視点で見直します。そして、自分と他者との関係を図示して今の自分を俯瞰したうえで、では、どんな相手に、どんな自分を伝えたいかを考え、実際に伝える練習も。講師のお話と、様々なグループワークを通して、つながる相手は自分で選んで良いし、相手に伝える自分も、自分にウソをつかない誠実さが大切、「誰とでも上手くつながらなければいけない」わけではないと学ぶことができる講座でした。

## 講座の中で紹介された「私たちの12の権利」

- ① 私たちには、尊敬をもって扱われる権利があります
- ② 私たちには、自分の感情を言葉で表現する権利があります
- ③ 私たちには、自分の意見と価値観を述べ、真面目に取り上げてもらう権利があります
- ④ 私たちには、自分にとって大切なものはっきりさせる権利があります
- ⑤ 私たちには、申し訳ないと思わず、断る権利があります
- ⑥ 私たちには、欲しいものを欲しい、したいことをしたいと言う権利があります
- ⑦ 私たちには、考えを変えてもいい権利があります
- ⑧ 私たちには、「わかりません」と言ってもいい権利があります
- ⑨ 私たちには、失敗する権利があります
- ⑩ 私たちには、人の悩みや不機嫌を自分の責任にしなくてもいい権利があります
- ⑪ 私たちには、周囲の人から良く見られているかどうかを気にしないで人と接する権利があります
- ⑫ 私たちには、言いたくないことは言わない権利があります



開催日

9月2日

土

フォーカスみえ

## 「女子マンガから学ぶセルフラブ(ご自愛)のススメ」

様々な視点から身の回りのジェンダーが関わる問題について考えていく講座「フォーカスみえ」。今回は今や日本を代表するポップカルチャーとなった「マンガ」にフォーカス！マンガ研究者で、ラジオ等様々なメディアで活躍中のトミヤマユキコさんを講師にお迎えし、女子マンガの視点から「ルッキズム」について考えていく講座を開催しました。

トミヤマさんは著名な作品からちょっとマニアックな作品まで、多様なマンガを紹介いただきながらルッキズムについてお話しされました。私たちの身の回りルッキズムという他人の美の基準に振り回されずにいるためには、自分軸の美の基準が必要で、それを持てるようになるには日頃の練習も必要とお話しされ、参加された皆さんも「自分軸」の大切さを感じておられる様子でした。



# 事業予告

3/2

## 男女共同参画フォーラム ～みえの男女2024～ CHOICE ～私が選べると、ワタシの人生～

同時開催：第36回 農山漁村のつどい

毎年「国際女性デー」に向けて開催している男女共同参画フォーラム。今回のホールイベントでは、チャンネル登録者数17万人以上を数える性教育YouTuberシオリーヌさんをゲストに迎え、シオリーヌさんが発信している「性」に関する知識や意識、また、女性に限らず全ての人が自分らしく自分の生きる道を選んでいるために学びたいことや身に付けたいことなど、じっくりお話をうかがいます。

みんなが自分の生きる道を自分で選んでいけるために大切にしたいことを一緒に考えてみませんか。



### シオリーヌ(大貫詩織) 助産師/性教育YouTuber/株式会社Rine代表取締役

総合病院産婦人科、精神科児童思春期病棟で勤務ののち、全国の学校や企業で性教育に関する講演・イベントの講師を務める。性教育YouTuberとして性を学べる動画を配信中。2022年10月性教育の普及と子育て支援に取り組む(株)Rineを設立。著書『CHOICE 自分で選べるとするための「性」の知識』(イースト・プレス)、『こどもジェンダー』(ワニブックス)、『やらねばならぬと思いつつ～超初級 性教育サポートBOOK～』(ハガツサブックス)ほか。

#### 《ほかにイベントがいっぱい》

フォーラムでは、「第36回農山漁村のつどい」を同時開催のほか、分科会やパネル展示など様々な企画をお届けする予定です。皆さまのご参加をお待ちしています！

3/3

## ホワイトリボンラン2024

ホワイトリボンランは、3月8日国際女性デーと連動させて2016年に発足したチャリティアクションです。ホワイトリボンが掲げる「すべての女性が健康で自分らしく生きられる世界」を目指し、支援の輪を広げることを目的としています。「走ろう。自分のために。誰かのために。」というスローガンを掲げ、同じ公式Tシャツを着て世界の女性のためにみんなで走り世界中にホワイトリボンのムーブメントを起こします。エントリー費の収益全額が寄付され、世界の女性の命と健康を守る活動に使われます。

みえ拠点は、3月3日に津市内の中勢グリーンパークで開催。順位を競ったりせず、自分のペースで楽しく走れる「ファンラン(楽しく走る!)」ですので、ゆっくりでも大丈夫!「自分のために、誰かのために」みんなで走りましょう。



日時 3月3日(日)  
10:00~12:00

会場 中勢グリーンパーク  
対象 どなたでも  
定員 30名程度  
事前エントリーが必要です。  
エントリー受付 1月31日(水)

#### エントリー費

25歳以上4,800円  
中学生~24歳 3,000円、小学生以下 2,000円

申込は公式HPより →



2/12

## フレンテみえ「パートナー・サポーター登録制度」交流イベント みんなとつながるフレンテ交流会「フレク！」

『フレク』はフレンテみえに登録していただいているパートナー(団体)・サポーター(個人)の皆さんが集まって、交流を深める会です。新制度に変わり、初めての今回は、コロナ禍でコリ固まったからだをほぐして、リラックスしながら、皆さんと楽しく交流したいと思っています。

ストレッチなどを予定していますので、軽く動ける服装でご参加をお待ちしています。

ヨガマットなど敷物をお持ちの方はご用意お願いいたします。



日時 2月12日(月)祝  
13:30~15:00

会場 三重県総合文化センター内  
三重県文化会館1階 レセプションルーム  
対象 フレンテみえ「パートナー・サポーター登録制度」の団体および個人の皆様と  
そのご家族

申込締切 2月4日(日)  
託児 あり 要事前申込 0歳3ヶ月~小学3年生程度  
子ども一人につき500円  
託児申込締切 1月28日(日)



不定期連載  
インタビュー  
フレンティが  
聞く!

# みえの 第13回 ひとびと

ほんざわ ゆか  
本沢 結香さん (トンガ坂文庫 店主)



本沢結香さんが店主を務めるトンガ坂文庫は、尾鷲市の漁村・九鬼町の小さな路地にポツンとたたずむ本屋さん。本棚を覗いてみると、ジェンダーに関する本がたくさん!

もともと尾鷲市に縁のなかった本沢さんが、東京から尾鷲市に移住を決め、本屋さんを始めた経緯や、尾鷲市の男女共同参画審議会委員もされているということで、ジェンダー観についてもたっぷりとお話を伺いました。



尾鷲市に移住を決め、本屋さんを始めた理由を教えてください。

私は長野県松本市出身で、大学進学を機に上京しました。10年ほど東京で暮らした頃に、都市での暮らしに疑問を持ち始め、地方移住を考えるようになりました。そんな中参加した、東京のNPO法人が運営する、社会人向けの地域課題解決型プログラムがきっかけで、初めて尾鷲を訪問。森林や未利用魚の活用をテーマに半年間の活動を行ううちに、土地や人に愛着も湧き、この地で暮らすことに決めました。

「自分の住む町に本屋があってほしい」という、同じく移住者の友人に誘われ、九鬼町にトンガ坂文庫を開くことになりました。まさか自分が本屋さんになるとは思っていませんでしたが、新しい知識を運び込む拠点として、コミュニケーションの場として、本屋という仕事に面白みを感じています。

尾鷲市に暮らしてみてどうですか?

楽しいです。東京ほどの大都市では、同じ興味・関心のある人で集まりがちで、そこから離れた人との交流はあまりありませんでした。しかし尾鷲のように人口の少ない地方地域だと、良くも悪くも様々な人と関わることになります。それが自分の世界を押し広げることになりました。全然違う考え方の人が、身近にこんなにもいるんだと。

生の音楽を聴きたかったり芸術鑑賞をしたいと思っても、都会のようにはいきません。そこで、今まで興味がなかったジャンルのものにも足を運んでみると、初めて触れたものでも、意外と好きになったりするものです。東京にいた頃にはなかったことなので、そういうところが田舎の面白さの一つだと気がきました。

★本沢さんが手渡したおすすめの本、アルテイシアさんの『モヤる言葉、ヤバイ人 自尊心を削る人から心を守る「言葉の護身術」』は、フレンティみえの情報コーナーにも置いてありますので、ぜひお手に取ってみてください。

トンガ坂文庫 〒519-3701 三重県尾鷲市九鬼町121 TEL 070-4340-2323 営業日 土日祝  
トンガ坂文庫HP <https://www.tongazakabun.co/>

また、行政規模の小さい地域では、町のできごととの距離が近く、興味が湧きます。選挙でもほんの数票差で当落が決まったり、市政への声が届きやすかったりすることで、当事者意識を強く持つようになり、政治も身近に感じられるようになりました。

そこで尾鷲市の男女共同参画審議会委員に立候補されたんですか?

はい、尾鷲の広報誌で見かけて、知人に相談をして一緒に立候補しました。もともと、ジェンダーへの関心が強いという訳ではなかったのですが、東京の友人の活動などに影響を受けて関連書籍を読んだりする中で、興味を深めていきました。より具体的に、自分の暮らすまちで、なにかできないかと思ったことが動機のひとつです。

尾鷲市の男女共同参画の状況についてどう思われますか?

地域柄、昔ながらの男女観が強いところがあると感じています。職場などでも、お茶くみや掃除は女の仕事という、固定的な性別役割分担の意識が今も広く共有されていることには、それなりにショックも受けました。冠婚葬祭でも、中心は男性で、女性はお世話係。伝統や信仰とも関わるため、もちろん全てを否定するものではありませんが、ジェンダー観が再固定化される場であることは否めないように思います。

漁業や林業を中心として成り立ってきたまちなので、男性が働きに出て、女性が家事や子育てをこなすという構造が、うまく機能してきたことも理解していますし、共働き世帯が多くなった現代でも、男女の賃金差の問題などから、ケアワークを女性が担わざるを得ない状況もあります。

様々な事情が複雑に絡み合う中で、一足飛びに男女共同参画を実現するというのは難しいですが、まずは意思決定の場に、女性をはじめ、多様な人材が関わるにはどうすればいいか、というのが最近の関心事です。

もちろんこれは男性側だけの問題ではなく、女性の意識の問題もあると思います。そこに気づいてもらえるように、ジェンダーの本を売ったり、手渡したり。地道ではありますが、私にできることの一步かと思いついています。





今年度一年かけてご覧いただく山崎ナオコーラさんによるエッセイ。今回は全4回のうちの第3回です。これまでのエッセイは右のQRコードからご覧いただけますので、こちらもぜひご覧ください。全4回のエッセイをとおして、山崎さんと一緒に「自分らしく生きること」について考えていきます。



## 第3回 わからなくても差別しない

おそらく、「他人を差別するのが好きだ」という人間はいないだろう。世の中には、優しい人のほうが多い。

けれども最近、トランスジェンダーの当事者に対する差別的な言葉をよく見かける。

私自身は生活の中でそういった言葉を発している人に直接会ったことはないのだけれども、SNSにはあふれているし、差別感情を持っている人は実際にいるようだ。

友人や家族にトランスジェンダーの当事者がいる人は、たとえ理解が難しく間違っただけの思いをぶつけてしまうことはあるとしても、激しい差別の言葉を投げけるほどのことはまずしないだろう。

激しい言葉を投げている人は、ご自身にとっての大事な人に当事者がいなくて(あるいは、トランスジェンダーの当事者は差別的な社会の中においてはそのことを隠さざるを得ないので、いないと思込んでいて)、知らない遠い人に対して警戒をしているだけなのかもしれない。

どうも、差別的な文言を発している人も、特別に意地悪な人というわけではなく、自分にとっての身近な人たち、友人や家族に対しては優しい、普通の人のような気がする。

どうして、遠くにいる人に対しては、「激しい言葉をぶつけてもいい」という気持ちになるのだろうか。

「わからない」という感情が恐怖心につながってしまうのかもしれない。その人たちが敵なのではなく、実際には他に敵がいるのに、「遠くて、自分とは違う人」を敵だとみなしてしまう心理が人間にあり、その心理に流されて誤解が生まれ、差別が渦巻いてしまっているのではないだろうか。

そして、「トランスジェンダーの当事者たちを差別したくないし、できることなら、連帯を表明したい。みんなで差別のない社会を築いて、平和に暮らしていきたい」と思っている人たちも、「わからない」という思いから、黙ってしまっているのではないだろうか。

人間には、それぞれ毎日やることがある。介護や育児や仕事や勉強など、いろいろな悩みや使命感を抱えて生活しているので、

自分にとっての大きなテーマではないことの細かい知識まではなかなか得られない。トランスジェンダーに関連することが、自分自身の生活においてのメインの悩みでない人の場合、「もっと知りたい」という思いがあったとしても、他に勉強しなければならないこともたくさんあるし、十分な知識を持っているほどの状態になかなか成れない。そうすると、「何が差別になるのかよくわからないし、余計なことはしないでいよう。無駄に傷つけたくないし、もっと知識のある人が何かやってくれるだろうし」と、私も含めて、黙ってしまう。

「理解をしよう」「知識を得よう」という目標も大事だけれど、ハードルが高いので、まずは「わからないままでも、共存しよう」でいいのではないだろうか。

「わからない」ことを「わからない」ままで受容できる世の中になったら、的外れな恐怖心や、ただ沈黙するだけの行動が、減っていくかもしれない。



山崎ナオコーラ

作家

1978年福岡生まれ、埼玉育ち。國學院大學文学部日本文学専攻卒業。2004年から小説やエッセイの発表を始める。最新刊は、現代のジェンダーや社会規範と照らし合わせて源氏物語を読むエッセイ『ミライの源氏物語』(淡交社)。目標は、「誰にでもわかる言葉で、誰にも書けない文章を書きたい」。

フレンテスタッフコラム 4回シリーズ

“女性と政治”についての気になるあれこれ

「ハラスメント」について、ふと思うこと



仕事でも私生活でも、あなたが自分の希望を叶えるため、誰かのチカラになるために心から励もうとしているとき、突如それを妨害してくる人がいたら、どう感じますか？ または、身近な人がその人がもつ“力”を使ってあなたを支援する代わりにあなたに“見返り”を求めてきたら、どうですか？ …ちょっと気持ち悪くないですか？

自分本位で相手の気持ちを感じにくくなっている方たちによって引き起こされる「ハラスメント」。理不尽な要求やルールの押し付け、威圧、支配、暴言、中傷…。パワハラ、モラハラを筆頭に、選挙・議員活動においても、候補者、有権者、議員等の間であらゆるハラスメントがえげつなく繰り返されています。中でも特に女性の被害が多いのが「セクシュアル・ハラスメント」。選挙活動時から横行しています。

街頭演説をしていたら後ろから抱きつかれた。通り過ぎる際にお尻をなでられた。名刺を渡したら「デートしたいから電話していい？」と言われた。「キスしてくれたら投票する」と言われた。ボディタッチや性的なからかい、容姿の批評、卑猥な声掛け、執拗な誘いなどなど事例は数知れず。いい歳をした大人が一体なにをやったんだ…。と、これは単純な憂いです。

ふと思うのですが、こういう行為をする有権者(=加害者)は、私たちのすぐ身近にいるのだと。自分たちと同じまちで、同じ一票をもっている人が、必要以上にそれを誇示し、権力として悪用し、加害し、なんなら周りからは「頼りになる人」とか慕われながら同じ“いち住民”と称して大腕を振って生活している。加害者なのに。

そんな人たちが確かに近くにいて、そして、そんな人たちを私たちは“野放し”にしている。加害者が居続ける限り被害はなくなるらないのに。傍観者は加害者と同じなのに。

内閣府の令和3年発表の調査では、選挙・議員活動中に有権者や支援者、同僚議員等からハラスメントを受けたと回答した男性は32.5%、女性は57.6%で男性より約25ポイントも高くなっています。(もちろん男性の被害も女性の被害も問題ですが)これも著しい男性優位の環境下における深刻な問題。多様性を掲げ意思決定の場にもっと女性をよと勤めていながら、これらの問題には十分な対応がとられないまま女性候補・議員の負担は続き、その志をも挫こうとしています。

有権者は全員が「成人」。皆がちゃんと“人”に成って“いれば、こんな問題は起こらないはずでは。

成人とは「心身が十分に成長した人のこと」です。

私たちは、候補者・議員へはもちろんですが、自分たち有権者にも、もう少し目を向けた方がよいのかもしれない。

選ぶ人、選ばれる人。互いが健全に、純粋に、本質によって選び選ばれる関係を築くために、まずはどちらももっと、声を上げていきませんか。おかしいことはおかしいと。猛々しく。

【表】議員活動や選挙活動中に受けたハラスメント行為(性別) ※複数回答可、性別無回答を除く

順位	男性	女性
1	SNS、メール等による中傷、嫌がらせ 15.7%	性的、もしくは暴力的な言葉(ヤジを含む)による嫌がらせ 26.8%
2	投票、支持の見返りに何らかの行為を要求 10.7%	性別に基づく侮蔑的な態度や発言 23.9%
3	性的、もしくは暴力的な言葉(ヤジを含む)による嫌がらせ 8.1%	SNS、メール等による中傷、嫌がらせ 22.9%
4	その他 4.6%	身体的暴力やハラスメント(殴る、触る、抱きつくなど) 16.6%
5	年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷 4.3%	年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷 12.2%

令和3年3月「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書」(株式会社エイサーサーチ&コンサルティング(内閣府男女共同参画推進事業))より

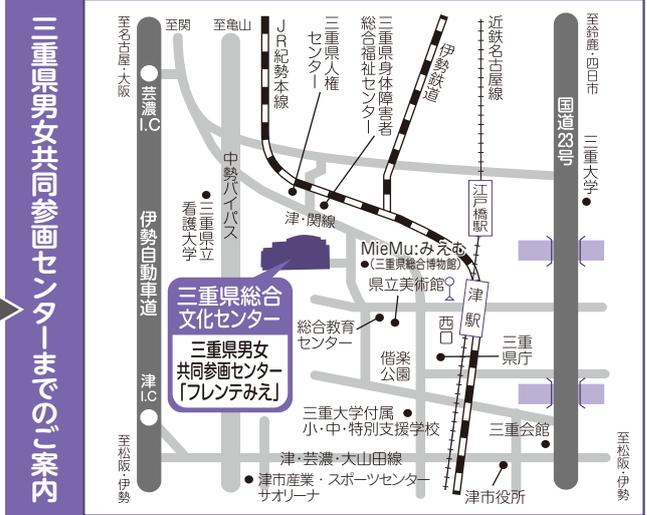
このコーナーでは、「女性と政治」について感じることを、両者の距離を縮めるために必要な意識や知識について、4回にわたってつぶやいてまいります。ゆっくりお付き合いください！

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流および人材育成の「6本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ



休館日 毎週月曜日 年末年始(12月29日から1月3日まで)  
交通 徒歩/津駅西口1番のりばから約5分、徒歩/津駅西口から約25分、自家用車/伊勢自動車道津雲濃インターから約15分、津インターから約10分 ※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター 三重県男女共同参画センター フレンテみえ  
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地  
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135  
URL https://www.center-mie.or.jp/frente/  
E-mail: frente@center-mie.or.jp

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…  
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30	休館日	●	●	●	●	●	●	●
夜 17:00~19:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内 (切り取ってご利用ください)

